



### <南区自立支援連絡協議会運営について>

令和2年度は、すべての人にとって未知の経験をした年でした。毎日当たり前にしていくことができない日々が長く続き、本当にいろいろ考えさせられる1年でした。

そのような状況の中、南区自立支援連絡協議会では、できることを探しながら工夫をし、すすめてきました。WEBでの会議もその一つです。初めてWEB会議でワーキンググループを行ったとき「久しぶりにみんなで集まると安心するね～」とお話したのがとても印象的です。とにかく「つながり続ける」ことを大切にして活動を続けてきました。

令和3年度もこの地域で暮らす、活動する私たちがつながり続けることができるよう、皆さんとたくさんお話ししながら活動を続けていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

この春、南区障害者基幹相談支援センターにも別れと出会いがありました。

中島修一（退職） \*新しい場所で活躍しています！

<新職員>

サテライト：小野原理恵（熱田区障害者基幹相談支援センターから異動）

本部：小川ちはる（相談支援事業所そよ風から異動）

新しい仲間を迎え、新たに4月からスタートしています。

どうぞよろしくお願いいたします。

令和3年度 定例会のお知らせ

コロナウイルス感染拡大予防のため、定例会は書面開催といたします。関係の皆様には郵送で資料をお送りいたします。ご意見等ありましたら、南区障害者基幹相談支援センターまでご連絡をお願いいたします。

### <要援護者の防災を考える会>

令和2年度はコロナ禍により地域の防災訓練の開催も控える状況の中、要配慮者の防災を考える会も下半期から少しずつ会議を開催しました。ただ、冬期にはコロナ流行第3波になり、昨年度実施したような活動はできませんでした。

そのような状況の中、新型コロナウイルスの影響で、例年実施している推進協研修会を中止し、その代替として「防災と福祉」をテーマとしたDVD「南区推進協活動レポート」を作成する企画があり、要配慮者の防災を考える会も参加させていただくことになりました。防災訓練や避難所体験訓練をはじめとする地域の活動に参加させていただきながら、障がい者をはじめとする要配慮者に対する防災について大切なこと、必要なこと等をお伝えするだけでなく、地域の皆様と一緒に考える機会をいただいたこと等、今まで進めてきた活動を中心にまとめさせていただきました。

令和3年度に入った現在もコロナ流行の影響が続いており、活動が進められるか不透明ですが、安全に配慮しながら地域の皆様と一緒に要配慮者も含めた防災活動を進めていきたいと考えております。

### <児童の生活を考える会>

昨年度は、コロナ禍での子どもたちの通所状況や事業所での取り組み、感染防止対策について意見交換を行いました。年度当初は対応についてわからないことが多く、不安を抱えながら、しかし子どもたちを守るための取り組みに奔走した時期でした。そのような時に、プログラムの工夫や感染対策のアンケートを行い意見交換しました。他事業所のとりくみを参考に、新たな活動を作っていた事業所もありました。

また、例年行っている「みなみっこフェス」が中止になりました。しかし「つながりつづける」ことを大切に、みなみっこフェスで行ってきたプレゼント交換を実施しました。各事業所で工夫をこらしたキーフォルダーを作り、それを事業所間で交換しました。作っている時も楽しい、もらってもうれしい、そんなワクワクした気持ちを感じてもらえる時間になったと思います。

## <福祉関係事業所連絡会>

緊急事態宣言が出された4月、区内全ての障害福祉事業所むけに、緊急アンケートを実施しました。普段以上の業務負担のなか、半数以上の事業所から回答があり、なかには「医療もがんばっているが、福祉もがんばっている！」など、最前線で奮闘する生の声も寄せられました。アンケート結果は、希望する事業所に送付するとともに、南区役所・南ブロック自立支援連絡協議会（南区・天白区・瑞穂区・緑区）を通じて、名古屋市にも「緊急課題」として提出し、対応を要請しました。

11月には、福祉事業所における新型コロナ発生時の対応についての実践報告、2月には、令和3年度障害福祉サービスの報酬改訂についての研修会を、いずれもオンラインで実施しました。オンライン研修では、パソコン上ではありますが、顔を見ながら、グループで話し合いをすることができ、福祉事業所同士のつながりが感られました。

まだまだ、多くの事業所が集まることは、感染リスクが高いと考えられます。令和3年度も、オンラインでの、顔の見える関係づくり、より良い支援のための研修会を実施してまいります。

## <相談支援連絡会>

昨年度はコロナの状況下でつながり続けること、学びを止めないことを大切に取り組んだ年となりました。相談員の皆さんと初回リモート会議がスタート出来たのは6月でした。不安な中、それぞれが情報を持ち寄り共有し相談できたこと、そこから相談員のBCPについて考えることが出来たと感じています。

また、相談員という職種から感染リスクをなるべく回避できるよう、1年通して試行錯誤しつつリモートにて会議や研修を行ってきました。研修は「意思決定支援」「ケースメソッド技法の研修」「事例検討会」を各大学の先生方にご協力いただき、充実した研修が行えました。

そして、南区社協より「地域共生」をテーマに包括的な支援体制の構築の取り組みを報告していただき、南区福祉系からは差別・虐待防止会議について報告をいただき、地域の課題となりやすい世帯像についても深く学べる機会となりました。

## ＜地域福祉力を伸ばそう＞

令和元年度に「あなたも誰かのサポーター ～ こころの健康ピアサポーター養成講座」という中学生向けの研修を実施し、好評を博しました。令和2年度に、第2回を開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響から、やむなく断念しました。

令和2年度は、研修は実施できなかったものの、令和元年度の研修を通して得られた中京大学川島准教授や、子ども応援委員会の方々とのつながりを大切にしながら、今後の研修開催に向けて検討を始めています。今後、どのような形で実現可能になるか、見通しが持てない状態ですが、感染状況を踏まえつつ、子どもたちの気持ちに寄り添った研修が実施できるよう、検討を進めていきます。

## ＜地域生活支援拠点の面的整備の会＞

令和2年度は、オンライン会議と対面形式の会議を織り交ぜて開催しました。当初オンライン会議はぎこちない中でしたが、回を重ねるごとに、使い慣れてきました。

地域生活支援拠点事業とは、障害者及び障害児の重度化・高齢化や「親亡き後」に備えるものです。重度障害にも対応できる専門性を持ち、地域生活において、障害者及び障害児やその家族の緊急事態に対応を図る場所となっています。

名古屋市の地域生活拠点事業には「お助けショートステイ」という制度があります。これは、介護者の、疾病・事故・出産・それに準ずる理由から、一時的にご家族支援が受けられなくなる方むけの制度です。事前登録が勧められているため、相談があったケースについて、様々な支援のあり方を含めて毎月検討し、現在まで15名に登録いただいています。

将来の自立に向けた「お試しグループホーム」という制度も、少しずつ利用が始まっています。

地域生活支援拠点事業の周知のため、南区独自のパンフレットを作成しました。名古屋市のパンフレットと合わせて、拠点事業所・基幹センター・区役所に設置させていただきます。

発行元：南区自立支援連絡協議会事務局

南区障害者基幹相談支援センター

TEL：052-822-3001 / FAX：052-822-3035